

日本学術会議
健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会
(第25期・第1回)
議事録

1. 日時：令和2年12月17日（木）15：00～16：00
2. 場所：ビデオ会議
3. 出席（敬称略五十音順）：荒井秀典，安村誠司，秋下雅弘，飯島勝矢，伊香賀俊治，
須田木綿子，住居広士，田高悦子，玉腰暁子，吉野博
4. 欠席（敬称略五十音順）：太田喜久子，野口定久
5. 議題

(1) 自己紹介

第25期高齢者の健康分科会（R2.12.17現在）に基づき、委員の自己紹介があった。

(2) 委員長及び役員の選出

以下の役員が選出され、承認された（敬称略）。

委員長：住居広士

副委員長：須田木綿子

幹事：飯島勝矢・田高悦子

(3) 今期の活動方針

第25期高齢者の健康分科会設置目的、審議事項（資料）等に基づき、今期のテーマについて意見交換した。その結果、前期に引き続き高齢者のフレイル予防・対策（地域・コミュニティづくりを含めて）について、with/afterコロナをふまえ、学際的に検討してはどうかという意見や、高齢者のフレイルのみにとわれず、多様に検討してはどうかという意見等があり、次回、引き続き検討することとなった。

具体的意見（抜粋）

- コロナによる生活不活発を基盤とするフレイル化の問題
- コロナ問題は従来の社会課題・地域課題をより早く見える化した
- 安心して外に出られるまちづくり
- アクセスシビリティー問題、社会インフラ整備（特に情報インフラ）
- 住まい環境と健康：WHOからも提言出ている、宅内でのトラブルも予防
- 健康に関する施策やアプローチがなぜ万人に行き届かないのか、介護保険の構造的課題
- 健康格差、地域間格差

- 学際性を活かすべき；オムニバス形式でまとめていきたい
- 少なくとも報告をまとめ、提言までもっていけるようにどう模索するか
- 提言の作成には、早めに着手をするべき（特にフレイル予防に関するテーマになるならば、早めに出す必要あり）
- セミナーやシンポジウムを早めにセットした方が良い
 - 学際性を意識したシンポジスト選び
 - 事前から各専門の先生からの最新情報提供をオンラインで勉強会を
 - そのステップを踏んで、シンポジウムのイメージアップを

（４）その他（次回について）

日程：2020年1月～2月（別途日程調整、オンライン予定）

議題：今期のテーマについて、他

以上